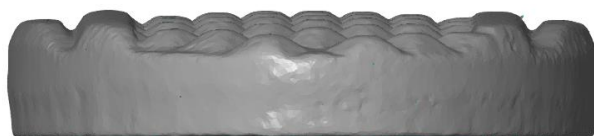
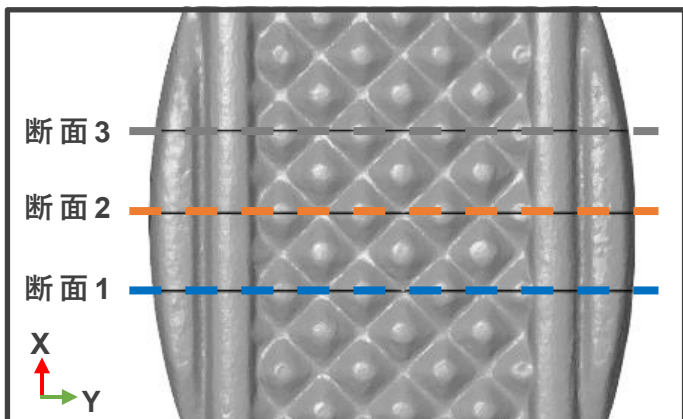
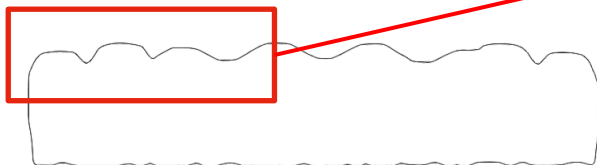


3Dスキャンデータ活用 断面形状 分析

【3Dスキャンデータ】

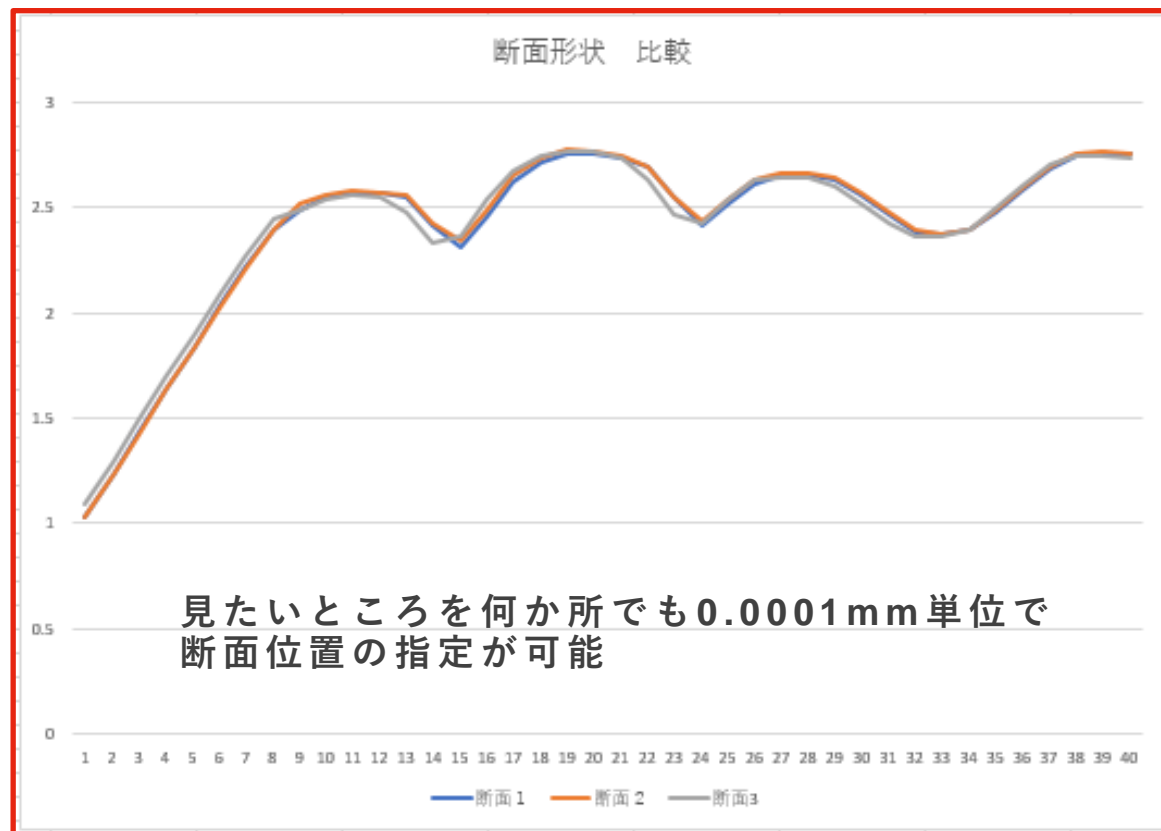


【X方向に見たデータ】



【抽出した断面ライン】

複数断面の形状比較や傾向調査に

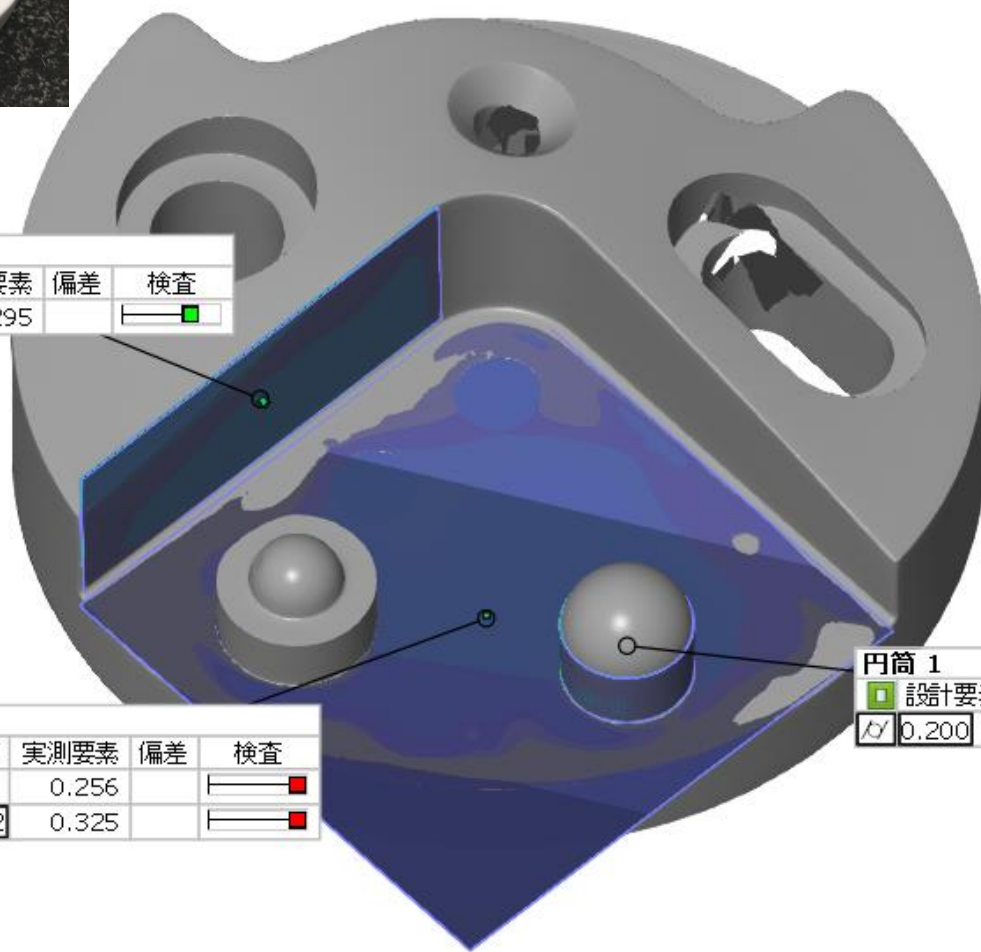




幾何公差の実態把握に

プローブ計測より多くのポイント数を使って検査するので、全体像を早く確認できる

※平面1を作成するのに使用した点群数 = 2.4万ポイント



平面 5			
設計要素	実測要素	偏差	検査
⊥ 0.400 平面 1	0.295		

※

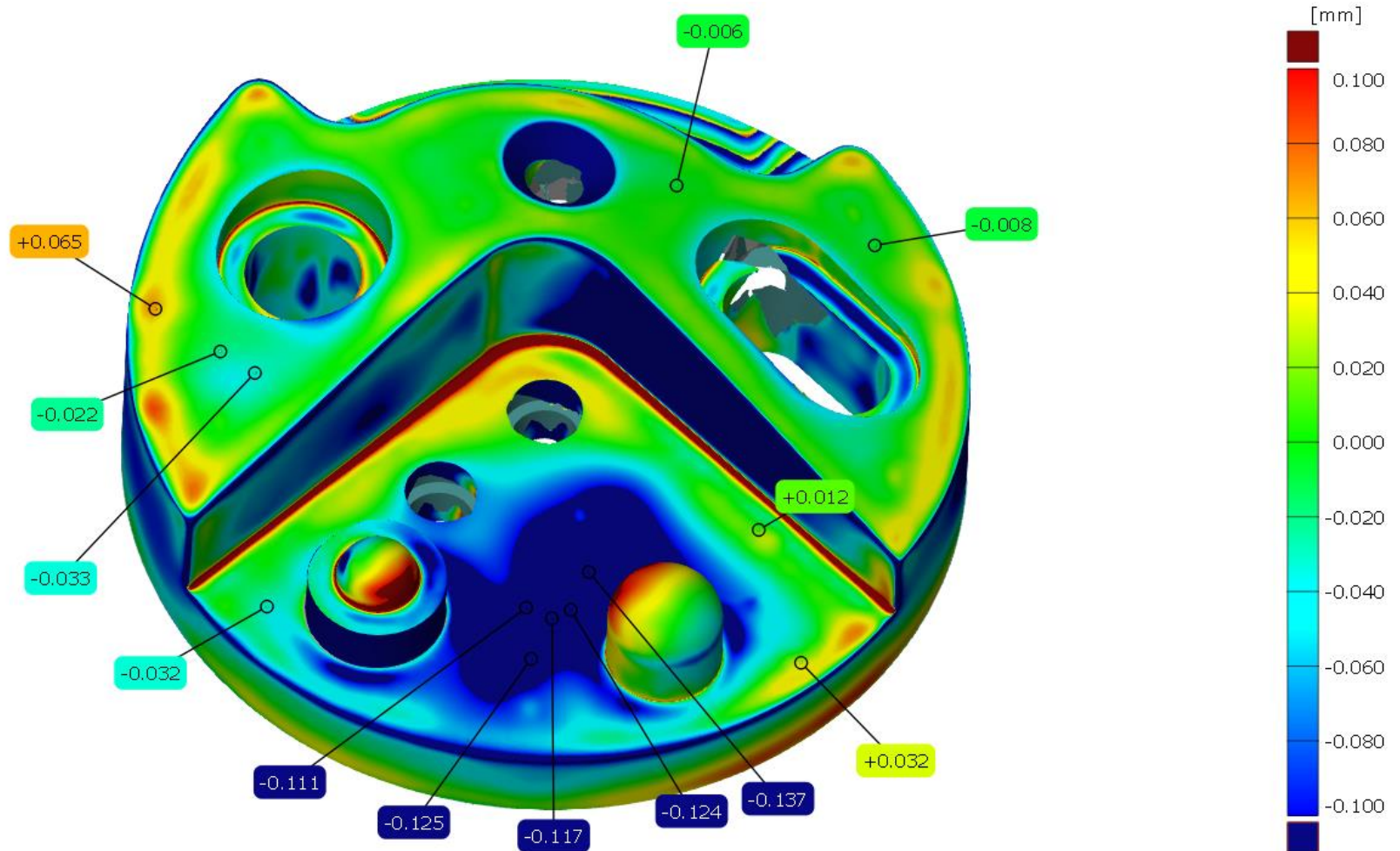
平面 1			
設計要素	実測要素	偏差	検査
□ 0.100	0.256		
// 0.100 平面 2	0.325		

円筒 1			
設計要素	実測要素	偏差	検査
∅ 0.200	0.154		

3Dスキャンデータ活用 カラーチャートでの形状把握

成形品反りなどの状態把握に

トライ品vsCAD、トライ1vsトライ2、良品vs不具合品 比較調査 解析結果との比較



3Dスキャンデータは、
基準位置からの測定物のXYZ座標値を読み取ることで、形状を認識しています。
数値（座標値）をもったデータなので、3Dスキャンデータ上で様々な調査をすることができます。

ノギスや顕微鏡などこれまでの測定方法ではわからなかったことが、3Dスキャンデータ「形状」を見ることで、わかることがあります。

パンチ工業では、パートナープランでのお試し3D測定もご提案できます。
ご相談やサービス紹介も無料で承りますので、お気軽にお問い合わせください。

パンチ工業の現象把握サービス 3D計測パートナーズ

詳細 & お問い合わせは

量産安定 形状測定

検索